

万国起原

リ 5  
2110  
49



特  
2110  
49

開國起原卷四十八



開國起原卷四十八

慶應年間邦内之形勢二

慶應元丑年十一月廿一日於藝州表大目付永井主水正目付戸川  
鉦三郎松野孫八郎長州家先寔戸備後助紅河之趣

一 當春内輪政争闘付大孫父子乍慎中為鎮靜政出張  
段一慮内面政争斗也、本細一書安ふ分明ふ内事

答右ノ大孫父子寺院藝居申一役方以委任仕高下處役方

一者私怨を授け残忍刻薄し取斗方政し情安通氣也  
 自士庶一統懐德堪蓋少争鬪之も去成り好也肝要謹慎  
 後自早速父子合鎮拵最前し通在に在るに助に付  
 拳國沸騰し次も去るに意外に後政出来り為斗  
 執に父子登居役方への委任仕に又情安不通  
 一は行要謹慎し旨趣も徹底に仕拵可立至り右拵に  
 別言幸恐入に後幸存此届中上も通乍登居中不侍  
 止更立直指揮鎮拵仕居に神に在る  
 一當妻に争鬪已及鎮静の上も大膳父子如以前秋に引取  
 慎可去るに一昨日中立し趣に鎮拵を為と乍中只

海舟書屋

今以山口に在るに巡行役居に彼如何との事

谷内輪鎮静古海に好也最前も通帰秋に立可中  
 好也士民一統舊年暮し旨趣に好也兼知仕居最早  
 此寛大し申沙汰振可ら為立し旨趣も折柄出計に  
 や申再討し不申言反り兼及下言に圍圍に知て不申  
 士民何れも驚歎し餘何れ必死覚悟し拵子も去るに  
 付億方一心得しもの有し不申可仕も幾斗  
 役方への委任仕に又舊年来し誠意も徹上  
 不仕拵成可中好も苦慮し餘何れ申沙汰好也  
 立可に別言鎮拵要に付此届中上も通更立可也

仕ふ得止史主無領國中史指揮方便利うろしき場  
 所は暫許居候次第に早文去冬以来誠意及々徹為  
 後度心得有き起事に由置候事山口津在り真に  
 甘才屋手扱し候住居寺院舊居同扱し心得を以て  
 後度心得有き起事に由置候事 思召分下候事  
 致上

一 舊冬破却し山口津以来再築候事評議次第加修理  
 民器間配この由事

答先般外夷拒絶期限サマ 仰出候事何時龍衣  
 奉り難斗ツ交領國に候事三面沿海敵衝し場不少

海舟書屋

殊ニ秋城地と違部に交柄に領内へ指揮所届兼且  
 城下敵衝も右富防禦方難治し地取に交古今村勢  
 遠敵状も変化あり十三代に祖輝元慶長中城地此  
 寮に之れ山口も側也右節者斗名連帯に居候他國  
 使者に引請事仕候所の所内差圖に次第柄に旁  
 山口に儀に領内に指揮方も右列候付全に城搦事仕  
 候に之れ真に土居取建手近に石老候家来斗り  
 引連在候居新搦候も番兵も至り藩漢に仕且に遂  
 手前度書面を以て取致ツ交巨細繪紙面を添へ出  
 振りの由事に付再い信島面古海美度出立不末

所許客もふり為すは、予に己を領内にて治吏進、龍馬  
 此仕片時も難固次第、自取由言通其し土居取立、己  
 善治、取惣攻揚城構、予後、其後、聊以、内、面、お  
 申、其、の、旨、を、去、秋、變、節、後、何、れ、是、心、方、し、飛、立、の、し  
 振、守、守、及、ら、れ、る、為、に、分、破、却、し、後、予、仰、渡、何、や、迷、惑、に、  
 幸、存、の、れ、や、恭、順、し、誠、意、を、以、内、沙、汰、幸、待、り、お、破、  
 却、取、惣、出、見、分、る、も、幸、文、を、後、に、本、細、戸、川、枝、の、美  
 知、し、通、只、今、に、至、る、お、申、を、先、般、外、夷、防、備、未、成、備  
 支、費、を、後、に、仰、出、せ、し、ら、れ、る、に、予、遂、に、首、度、心、得、に、  
 言、而、後、不、苦、を、以、内、取、つ、も、立、至、善、治、取、惣、後、に、

海舟書屋

元来父子之心を以て奉公し為己造官仕誠意を領内  
 農圃に著し萬々業和仕居、ゆえ、只外、に、予、仕、の、ゆ、え、去、冬、  
 破却取惣の旨も餘程内心に不平に存居、に、可、右、に、  
 今、其、國、内、亦、乱、し、首、不、待、り、品、修、復、等、に、取、惣、可、く、振、振、  
 付、早、速、取、押、し、修、差、を、事、に、内、定、に、振、而、し、別、候、加、修、  
 玆、大、小、破、苦、間、配、の、儀、を、勿、論、虚、設、に、決、し、て、是、に、後、に、内、定、に、  
 最、お、了、内、存、下、立、至、通、城、構、に、至、り、其、況、に、善、治、半、  
 途、未、し、仕、居、仕、に、至、り、其、旨、を、以、内、定、に、後、仰、く、内、定、察、に、  
 下、至、り、振、と、叙、上、に、

一 謹慎中家来し者馬廻未泊し英人より懇親接待し

とらぬ事

答右に去秋京師變初に付之し海、幸亦入積年

厭意又徹ッ根ニ其心尽力ニ慮も私闘ニ容ニ付下先

吏携運航免改ニ 所沙汰之旨も其意度止致し

應接ニ及人運航免並ニ薪水食料缺乏ニ最ニ相

渡川而已ニ最ニ早速ニ届申出立ニ道ニ内生ハ城外別所

悉款接待候ハ最ニ之ニ生ハ

一當其申下持し、悉意私豆人の賣掛方ニ自家末村田菴

六花押方し被言さき、長門も又節度人、互應接待

一ハとの事

海舟書屋

答右に仰すト次之始ニ業知仕右所持悉意形ハ最ニ先年

於被渡買入ノ最ニ最ニ悉意ニ釜餘程年數ニ在經ッ中

ニ言ッ所改定候仕付方ニ長持六ヶ友ッ所也領内ニ在之

候出來上ノ之修進海書ナ且ニ運用仕候ハ更ニ之

於馬関據吏ノ最ニ悉意釜破損一旦及沈没之後再

引上破損ニ釜手入等仕可成ニ運引者成ッ得也元來

古釜ニ儀遠洋亦出ッ候ニ其先東島又舊年東領

國ナリ他亦ハ私ニ出ッ候も亦成旁出分亦用ニ付右

松領内三田尻ハ碓泊島白亦組了付者者ナリ所也

揚陸所故也ト云々而牛も當其領内強擾ノ最何者

不業ニル夜中右船及紛失ハ行方不明領内分後走仕仕者  
 有之ニ居右ノ者也ノ不為ニル又ノ領内ノ強擾ニ未  
 振方々浮浪ノ者立入奪去ハ事歟ト云察ッ得ル事  
 行方不可尋手後モ多ク新月ヲ極ノ中ニ何ノ足跡  
 跡可未分ト存リ得也今以何ルモ慥ト右船足更ハ振ル  
 少モ不業ル古船ト上蓋ニ全破損不昔モ有リ候ニ付  
 遠洋未出及波没ニモ多ク於ト未考辰ノ交々仰ッ  
 之趣ニテ五人ノ賣拂村田花六花押ノ證言トモ  
 長門候ニ賣美人ノ互意接リルル事ト云事ト致入ル  
 候ニ由生ル右ニ付未考ルル事ト云事ト致入ル者又モ浮浪

海舟書屋

之考昔金銀調達ニカ右船を奪去應對ニ長門ノ  
 偽採ノ或ニ花六花押を偽作致シ國許ノ賣拂ノ  
 神ニ足セル者トモ可有リ何分也不業ヲ幸存ハ長門候ニ  
 去年本謹慎ノ決メ私ノ妻人ト相對仕ル事ト云花六  
 おちても主命ト云又自供ニ右船賣拂ノ候ニ決メ云  
 之ハ云 仰ッル旨ニ右船蹤跡ト云未分ル事何モ言  
 詰道筋ノ不業ノ以事終然モ幸無ク以事未分ル事  
 不堪切齒候ト云幸存ハ  
 一 大小祝夷人ノ買入ルル事  
 答右ノ何事ノ事ノ左振ル風月差起ル外ニ根元ト

義和と仕らぬ其國許ニ言テ去秋以來謹懐中ニ得テ右  
苦し後々決して喜し事ニ由望ハ

一 従前ハ引渡未成元公卿ハ使者并賜物並奉レ右為  
答礼諸大夫森寺大和等長抄ハ其越ハ其由事

答者ハ大儀父子謹懐中ニ付使者贈物並奉レ又ハ答  
礼ニ預ルハ御苦一向ニ其由生ハ然レテハ序元公ハ國許

下向ハ次才可幸上ニ言元奉一昨亥八月十八日當座  
ハ振子ニ言テ偏テ 九重内ハ尋常序大變レ而已幸

存素ク

聖躬ニ聊ハ序儀ヲ為其由事トモ不存ハ得共

海舟書屋

國許頑固愚直シ性質ニ由テ考ルテ姉小路少將殿大  
變後亦不事ニ由テ右ハ輔弼ハ其方ニ弟一也ハ測  
シ變ニ由テ連ルテハ其心

皇運ハ隆替ノ之アリハ 公過由政治向ハ張弛ハ

其係ハ可中其ハ頓念ハ折柄右元公卿方ハ為攘夷

西國下向ハ其願ハ其仰上ハ其ニ義ヲ執ラテ其罪案ハ

其趣旨ハ一國義和仕

朝廷ハ様子振未分リハ得共如何振共其義安可テ為王

ト幸存一國國元ハ供中ト由ニ其言無交於國元ハ大儀

父子振委細ハ其振子ハ義和仕只ハ其下向ハ其様子



後知は自早速の途才と家来と出立帰治未成の振の理  
 解は後中付の交海を向う向う行連は未成已に國內へ  
 向差岸の得止候は自乍北上馬の向理解可仕候と  
 交の差支候は國元へ向差仕度候下速未成候  
 國幸待の交の後為何の沙汰も向差立玉去冬筑前  
 表の引渡しの沙汰も向差付の引渡方仕候事  
 手前監物の上進し却下の歸入未成の振の取扱の交  
 未成候中上馬候も向差今候振候は候事願上  
 台昔の候も向差の旁外向り候細い情安業知の仕  
 余の私意も取斗候事候し斗在考候故も向差此

海舟書屋

度は仰留振候は向差候も幸急候登路も起候候  
 車存候此書し情安業馬も向差分下振候上  
 一 濟路監物大坂の向差候は向差出候中向差趣も向差  
 由り候候外末家并家老の内中合九月廿七日と  
 可出旨再應向連し交終及延引候事  
 答右に最前濟路監物も向差最急速中坂可仕候事  
 勿論候也國內事情も待止候有し止候友人病氣旁  
 早速登坂候仕候候候後款候中出候趣も向差委曲  
 向差知候為立候事も車存候候向差外末家並家老候  
 國內事情も同様候候且大京渡岐候も病候事候

急遠登坂勉任事餘業亦猶予未獲ハ依ハ此中亦在私也  
 依ハ予遠在少ハ是悟ハ以ハ為ハ國內事情ハ付テ鎮接説  
 得且ハ急合彼等ハ心配ハも亦少旁ハ得止キ仰出ハ期限  
 上坂勉任暫ハ間内於予ハ業ハ養ハ藩ハ取斗方ハ取  
 至可成火急上坂ハ心得ハ以ハ為ハ表ハ出ハ事ハ中  
 有打大儀父子最前ハ上坂ハ中付心底ハ後ハ也  
 諒察幸致ハ就テ國內ハ得止事情ハ別ハ厚ハ推  
 察ハ成下ハ様幸願上ハ

宮戸備後助

右尋し原圖條答書と共ニ備後助より美出ハ國才事情

海舟書屋

中喜一冊之内

此度ハ仰達言謹ニ幸採見ハ為ハ衷情底意ハ伏テ中喜  
 様ハの心事斯ニ亦手厚ニ仰渡下情ハ少名ハ下ハ誠ニ  
 以ハ萬ハ勉有仕合ハ此上依ハ付テ仰出ハ上旨ハ任セ事ハ國內  
 情實ハ終逐ハ一可幸ハ上私依田舎ハ中坐ハ得テ言語ハ  
 枚葉ハ之ハ憚ハ忌諱依ハ思ハ原ハ可ハ知ハ其ハ右枝ハ不  
 依ハ何幸ハ中拈ハ知ハ立ハ情實ハ酌ハ取ハ成下ハ振幸願ハ也  
 只今ハ仰出ハ昔ハ大儀父子恭順ハ助ハ去冬ハ通ハ事ハ連ハ  
 得ハ國內士民ハ一統主人ハ主志ハ專ハ一心得ハ可ハ中  
 交國內議諦ハ有ハ振未守ハ以ハ才ハ於ハの心事ハ幸

得て皆委細可幸了上云々仰せし通父子恭順謹懐し後々素  
 去冬に通外に未達等を生か抱きて士民一統に若も若百年  
 國恩を蒙り其在の時主人の主意を奉り恭順し以助付心得  
 遠居りもたも改命に國一故に其の徳に於て京師暴劫  
 巨魁を謀し交玉振山口新築破却公々方引渡書お解  
 交すも其義知し程幸願上云々併古恭順し以助未達等は付  
 して別後士民一統を修め情定徹上し仕りて外而は左様  
 右尺の如し難牛既先日國內士民一統を養妙表と歎  
 預下云々取らば幸願上云々の文字有らば由兼及右等も如  
 何處に可也思召本より國元へも連也

海舟書屋

皇國中蠢動生息し民ニハ何れ幸對

天朝幕府慈愛仕り以助上等、其に得て、乍恐只今云々國  
 國士民右様之情愛等々其難々中々元來國國士民一統  
 し心事に於て大徳父子先年以來

皇國一政に任つて外侮禦方六ヶ交幸存居り交上已上元  
 苛種し禍變も出未此餘如何に内亂に可立玉も幸存在恐  
 公武の合神に以助に付上等、乍及國力を尽し東西奔走  
 仕違言し康も不為捨玉而採用も其成尚

江戸御城二條御城等ニ於ては正 所直に仰せも  
 方し亦敢て候にても御共、其功に感奮在支御云々



皇國の大義名分も判然とす

天朝幕府より忠敬も亦顯れ父子多年し誠意國臣  
子々情定り明瞭徹上仕へ後与一統雖有年存れ  
最早平常し此沙汰可なり幸渴聖居り交り斗り彼  
是道路し夙夜も傳聞仕へて乍恐士民一統終惑し  
塵も少素より

天朝幕府に切れて去冬此陣拂し此不置に  
亦成り義言茶喉し條理も尽し一程し  
此餘も素より

皇國し此為り思召天下を此制取り  
寛仁大

海舟書屋

度し中不置し以下情勢甚し仕様亦格育し心  
此と寛大し此沙汰振り此不置し中上迄も  
此事可なり此免角僻境頑固し夙習  
し夙説も信用仕易く孰中此再討し  
餘主人父子後隱居し仰付し此又  
必夙説も流布し此疑問し策も亦施し  
大徳領地中も先祖八州領地し  
町家も亦成居り此解分りし  
餘も亦今も感状書類も亦不持  
仰付し此扶助方も亦差支り  
此不持止扶持仕来り

表也、並方知行高、古當ふて教信し人、執持三父子、儀兼し  
 古扶持三て、五の困り居り、神三の交、古くあて、何れも數百年  
 謹代恩顧三、僻境三生長し、頑固し、夙習愚直三、性質  
 三、在主人父子身上し、事已一途三、存心居り、交古昔流布  
 三、執同説も、安説と、執心得止主人父子兼三上三、重ん  
 天朝幕府三忠敬し、心得終始如一三、交士民一統三、事  
 主人三、律義誠實三、感服仕三、執主人父子三、外宇宙間  
 三、為候大切故、事三、事三、斗り、執考、居前、条、如き、風  
 説傳、少仕、度、毎三、扱も、作、恐

海舟書屋

天朝幕府三、所、慈悲三、事三、以、次、才、素、う、去、秋、京、師、し  
 一、件、中、上三、も、事、入、三、次、才、三、付、誠、恭、順、し、條、理、を  
 尽し、以、佐、も、中、上三、以、才、三、凡、天、下、し、人、智、愚、賢、不、肖、之、懸  
 絶、三、不、任、心、感、り、ゆ、せ、早、竟、大、儀、父、子、儀、先、年、之、条  
 皇、國、所、為、の、助、互、振、り、存、心、善、他、し、心、事、分、三、起、前、文、子、も  
 有、三、通、 嚴、命、三、事、人、し  
 天、朝、幕、府、三、お、お、て、信、を、天、下、子、以、失、不、遊、り、振、り、三、不、友  
 以、自、傳、も、仕、度、偏、三、骨、髓、忠、義、し、心、を、以、人、し、好、ま、ぬ、様、夫  
 三、戰、争、を、以、故、し、人、之、好、ま、ぬ、國、力、を、以、尽、し、其、末、去、秋、之、年  
 三、斯、上、に、玉、誠、恭、順、し、条、理、を、尽、し、以、是、又、早、竟

皇國之大義名分を主んとして誠心して不主として前後に  
 執着するの如き一片愚忠臣子の分を主として誠心におおて  
 終始如一の心術を天地鬼神現るる所を照覧して可なり  
 立て幸存居るを忘る情無きを知名分の下たる  
 一併打私せし主人父子並に

天朝幕府へ別心なき義士、誓て天地の終始不渝候に  
 得て奉渡を急て照覧するを左右に刻薄成り不主  
 為互に候て決して無し事と幸存居るや士民一統議論  
 方便に右等執間し風説を歩消へき存意し確證を養

海舟書屋

不中候て彼等内心を合はるる臣子の玉情を仔細に格  
 別叱り候も未成意旁以不形苦意を在何分も國許頑  
 固し風習愚直し性質も是を以て困入中第一も右等根  
 風説を警歎し御指苦有るに候て父子恭順し旨趣を  
 徹不仕の如く先年以來

皇國一統の中事公中上度存込誠意も是存外  
 事立玉可中素より防長二抄  
 皇國中の過漏端事も是る場下柄言身辨取  
 手足も末も未高可中併手是し疥癬言も懸  
 事も布滿仕る如き難し一統言父子始末家

先中一統苦心在在留此後萬分事思名分下出熟  
意し程手預上

穴戸備後助

大膳父子が昨年尾張前大納言殿に美出謝罪状  
中立恐懼謹而申沙汰奉待との昔父子と勿論長防  
二州之士民一同當節とも堅守との中立令義智從  
其後自判言面を以可中言

月 日

永升主水正

海舟書屋

戸川 鉞三郎

松野 孫八郎

今我出達之趣を以奇兵隊諸隊の内言言者河津五郎  
井原小七郎入江嘉傳次今日當表致到总に和分  
昨廿八日出達有之通明晦日言右馬一同國泰寺に  
可中此後大小監察役向に出達可中下段出頼以上

十一月廿九日

穴戸備後助

木梨彦右衛門



十二月七日夜に本梨彦右衛門の箇条答書

一 當春内輪鎮靜後、帰秋可成、交迎、五急、山口の滞居、  
後情變、不得止、故、令、兼、和、然、之、茶、順、を、昔、と、波、心、  
中、お、て、寺、院、盤、居、し、中、之、夜、お、連、慮、を、恐、入、在、立、死、と、  
の、事、

右、素、より、當、事、書、面、を、以、盤、居、中、幸、恐、入、の、事、お、得、止、候、  
内、御、上、之、御、名、主、下、の、御、上、之、御、名、主、通、言、定、以、最、  
前、に、通、秋、表、盤、居、役、方、の、委、任、仕、立、之、事、内、事、情、  
別、の、幸、恐、入、の、事、お、可、立、至、り、苦、慮、を、餘、事、し、大、小、  
程、重、を、高、量、し、お、得、止、迎、在、急、滞、留、仕、候、言、事、受、

海舟書屋

又、子、茶、順、を、昔、と、波、心、底、より、起、候、を、萬、之、事、思、召、分、可、  
下、の、御、上、之、御、名、主、先、連、傳、後、助、の、御、上、之、御、名、主、通、山、口、滞、居、真、之、  
事、屋、手、狭、し、候、住、居、寺、院、盤、居、同、様、し、心、得、之、事、在、候、  
事、二、内、事、

一 馬関止戦後一時碇泊し、英船より食料甚多遺り候事、  
船中、不、越、難、功、候、事、者、之、事、し、候、事、

右、之、決、之、事、内、事、尤、外、國、内、奉、行、折、柄、當、五、月、以、來、某、船、亦、間、  
接、し、次、才、亦、内、事、討、し、大、事、件、に、立、至、り、由、尽、可、兼、之、  
如何、し、内、事、亦、亦、存、居、折、柄、當、五、月、以、來、某、船、亦、間、  
関、口、碇、泊、し、付、臣、子、之、情、事、お、得、止、支、三、人、及、直、接、

其答振在亂後彼是之原由を以て自に後一月の少くも  
 是中にも好止候より起り全に懇切に事柄を言ふ程又  
 國情可上り既ニ文化年中俄羅斯長崎に蘭入之節  
 履霜堅氷至之譯に在考致隊編立神器陣之号  
 家中一統訓練為仕西陸之國外之藩屏に任行其事  
 存國端一定代々業續終ニ近年に事柄を立玉に  
 後ニ至今日破泊し夷船に食糧苦送下りて舉國に  
 慚憤亦一飛恐多くも在成載し  
 御宸極ニ天下し大小名同心戮力 幕府を扶助し  
 點虜を攘し寇竄し念を絶し久んとの

海舟書屋

取急何事とも貴徹傳信りて頃日食糧薪水缺乏し品可  
 事々未成中多交り定て舉國に人民切實憤懣し情事  
 去止時いつて、懇切可成以助合可者中實外西亮察事預

上

一 蒸氣船に軍備し重器故破損有し其紛失はるる届候し  
 空弁數金方も可有し交踪跡幾分候ニ致玉はる如何との由

上

右に仰す通り軍備し重器にて中實の外に右不持し多し軍  
 艦の中にも上り下り交不計紛失に付て早連空弁數金方も  
 可仕覺悟に候也、其頃内輪心配に慮も亦少く已ふに候

懐中領内分他邦へ人を出し事も成さず、穿鑿至方也  
行届意甚急在、何れ紅蹤跡尾も有し、早速西届  
中土度以得、之差和五、事、西堂

一 筑前家引渡、元公々、役方中付を以使者、後有  
之、る交せ、蓋之歡心、故展若之、玉情、自己、音信、故、  
し、此、の、事、

右元公卿方領内、西澤、必、中、役方、之、者、相、應、之、扱、仕、  
得、也、筑前、引渡、海、後、何、も、扱、可、必、以、助、合、之、事、但  
最、前、の、忠、誠、歎、然、し、西、方、有、し、西、方、之、付、草、芥、間、之、  
相、意、不、可、窺、知、得、也、小、過、を、中、一、賢、才、を、奉、り、中、典、故、

海舟書屋

之、難、及、西、の、助、合、も、有、し、外、採、と、喋、り、中、解、歡、心、仕、の、有、し  
之、由、之、得、也、西、渡、海、後、縱、令、情、之、獲、也、礼、義、之、步、自、己、之、音  
信、故、之、書、し、後、決、之、之、事、中、上、筑、前、方、之、事、心、得、方、可、有、之  
之、旁、之、思、分、下、度、事、取、上、

一 再度登坂し、西達有し、交及、延引し、其情安らむ、已、候、也  
令、兼、知、之、推、之、恭、順、を、旨、と、故、心、中、お、ろ、及、延、引、之、康  
之、恐、入、事、也、此、の、事、

右恭順も旨とし、一、折柄、之、付、之、彼、是、及、延、引、之、  
候、事、恐、入、得、也、淡、路、監、物、之、外、共、之、内、務、隊、之、取、上、  
通、情、定、不、得、止、次、才、之、事、何、分、僻、境、頑、固、之、尽、習、

付何事、議論、安効古殿、とて一片、終、惑、移、仕、  
兼、苦、意、不、容、易、改、正、其、所、在、分、度、幸、願、上、

十二月

木梨、彦、古、采、門

十二月九日、差、出、

自判書

大儀、父子、儀、去、冬、以、來、恐、懼、謹、而、申、沙、汰、幸、待、  
後、當、最、二  
至、此、也、堅、守、居、且、長、防、二、州、士、民、一、統、臣、子、之、分、  
幸、願、美、  
情、變、と、も、今、般、巨、細、幸、丁、上、意、、後、孰、也、、中、右、臣、能、有、幸、  
存、右、、決、して、右、連、、其、中、、然、上、、何、多、、市、沙、汰、早、、と、

海舟書屋

成下、様、幸、願、以上

十二月

実戸備後助、書判

木梨、彦、右、高、書判

諸隊、し、者、不、同、日、差、出、言、面

國情、之、、美、、と、、連、、之、、実、戸、備、後、助、、と、、り、、と、、少、右、臣、、後、政、、と、、り、、上、、也、  
申、洞、察、可、々、而、、其、、也、、是、、之、、也、、其、、情、、緒、、費、、塞、、可、、哀、、訴、、多、、候、、也、  
之、、辨、、矣、、天、、地、、高、、止、、方、、臣、、子、、之、、心、、事、、切、、迫、、之、、場、、合、、悲、、泣、、血、、涕、、之、  
餘、士、民、一、統、之、、幸、、也、、因、、之、、歎、、歎、、言、、也、、言、、也、、此、、先、、也、、也、  
紛、擾、之、、可、、及、、也、、主、、人、、父、、子、、大、、之、、心、、痛、、在、、也、、次、、才、、也、、也、、也、、也、、也、

此度國表并私兵、台出親交情実、少台上下私也、素より  
 國中、奉之、勉有仕合、幸存、右、台、自、是、迄、其、塞、以、次、才、荒、増、上、右  
 間、第一、忌、憚、二、觸、三、事件、も、由、空、ハ、臣、子、切、迫、シ、情、実、を、以、由、酌、取  
 之、仰、旨、ハ、私、幸、願、上、ハ、右、上、ハ、國、情、ハ、中、も、主人、父子、多年、シ、刻、苦  
 具、上、ハ、難、中、尽、由、空、ハ、先、上、一、二、を、奉、上、中、ハ、癸、丑、外、表、ハ、事  
 起、ル、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、恐

皇國浮沈、真奈、ハ、由、場合、ハ、右、考、種、ハ、建、言、若、仕、上、後、據、吏、ハ  
 由、沙、汰、ハ、仰、出、ル、ハ、ハ、ハ、別、言、主人、父子、晝、夜、ハ、分、テ、も、無、シ、刻、苦、勉  
 勵、寝、食、も、由、安、國、土、消、滅、ハ、心、ハ、期、ハ、偏、ハ  
 天、朝、ハ、奉、上、幕、令、ハ、道、ハ

海舟書屋

皇威挽回、吏、秋、擇、採、ハ、基、中、右、立、度、終、ハ、領、内、馬、関、争、闘、ハ、立  
 玉、ハ、交、辱、ハ、監、察、使、由、下、向、由、康、養、ハ、仰、旨、上、下、一、同、孫  
 以、感激、尽、力、ハ、折、柄、ハ、因、由、去、交、ハ、秋、遠、ハ、堺、所、由、門、教、言、揚  
 由、免、ハ、仰、旨、為、何、由、様子、ハ、由、幸、伺、何、歟、由、終、惑、ハ、右、由、私、  
 以、才、ハ、立、玉、ハ、歎、ハ、連、ハ、歎、願、若、仕、ハ、由、也、又、ハ、由、採、用、由、沙、汰、ハ、由、  
 ハ、終、ハ、昨、年、ハ、玉、ハ、憤、激、ハ、餘、ハ、多、人、若、上、國、ハ、馳、集、ハ、由、ハ、由、  
 主人、父子、ハ、堪、驚、駭、右、鎮、靜、ハ、為、ハ、家、老、ハ、若、若、也、セ、ハ、交、ハ、不  
 由、由、取、斗、ハ、ハ、ハ、ハ、由、容易、後、ハ、立、玉、官、位、由、稱、号、若、ハ、由、放  
 東西、藩、邸、ハ、ハ、由、毀、遂、ハ、尾、州、公、由、下、向、ハ、由、在、ハ、程、ハ、由、事、ハ、  
 由、由、交、右、始、末、國、才、ハ、於、由、遠、ハ、取、調、魁、首、并、冬、謀、ハ、由、若

昔志嚴科中付父子、於言一切存知、仕段中洞察、上陣  
持之未成、事之有之、餘定、平常如故、沙汰可有、國  
才一統、日夜渴望、臣等、豈固、中、再討、事、何共、不  
落、若、以、才、甚、以、幸、怨、臣、然、交、今、我、國、老、并、私、其、台  
出、布、於、惑、之、屋、之、未、細、中、尋、之、為、其、丈、之、而、答、上、之、交、何、也  
明、瞭、之、少、各、分、推、之、而、詰、責、也、不、為、主、定、之、所、於、惑、也、水、解、也  
仰、自、之、事、之、可、有、也、生、成、左、上、也

皇威扶助、吏狄掃、掠、微、忠、也、也、取、之、仰、自、隨、也  
皇國、之、名、義、凜、然、未、立、為、古、不、易、也、所、盛、典、此、度、之、為、奉、也  
主人、父子、之、素、也、二、州、之、士、民、也、斗、勉、有、幸、存、也、從、來、之、義、也

海舟書屋

一時、之、元、也、設、可、仕、存、也、縮、也、主、人、父、子、多、年、之、心、事、偏、也  
天、勅、之、奉、也、尊、命、之、道、也、天、地、神、明、之、折、也、一、片、之、誠、也、又  
也、却、之、不、容、易、也、所、於、惑、也、也、也、國、才、一、統、也、不、堪、憂、也、臣、子  
之、分、片、也、時、之、安、堵、也、仕、之、得、始、也、一、年、之、長、也、之、經、也、次、也、也、  
也、錄、察、也、仰、自、上、也

皇國、之、也、為、下、也、二、州、也、蒼、生、也、也、也、遠、也、平、常、也、也、沙、汰、也、仰、自、  
也、幸、也、上、也、右、也、上、也、國、情、也、也、於、惑、也、也、也、也、也、然、也、也、仰、自、  
度、幸、也、上、也、誠、也、恐、也、誠、也、惶、也、頓、首、再、拜、也

丑十二月

河瀬安四郎

井原小七郎

十二月十五日

御馬市鞞置 壹足

御馬裸脊 壹足 一橋中納言殿

莫金 五百枚

古大坂御城市産し間<sub>二</sub>お<sub>一</sub>わ<sub>レ</sub> 市對顔<sub>一</sub>上<sub>レ</sub>仰出<sub>レ</sub>

去秋毛利大儀家来<sub>レ</sub>也 禁闕不容易及擾乱<sub>レ</sub>交<sub>レ</sub>迅速

冬<sub>一</sub>内 禁裡市守湯<sub>レ</sub>勿<sub>レ</sub>端<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>指揮<sub>レ</sub>市<sub>レ</sub>届<sub>レ</sub>不移<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>及

鎮静其後去冬<sub>一</sub>市<sub>レ</sub>市<sub>レ</sub>我<sub>レ</sub>走<sub>レ</sub>賊<sub>レ</sub>徒<sub>レ</sub>追<sub>レ</sub>し京師<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>迫<sub>レ</sub>切<sub>レ</sub>付

海舟書屋

御所<sub>一</sub>の内<sub>レ</sub>預<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>追<sub>レ</sub>討<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>張<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>故<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>交<sub>レ</sub>賊<sub>レ</sub>徒<sub>レ</sub>降<sub>レ</sub>伏<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>鎮<sub>レ</sub>静<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>幸<sub>レ</sub>也

嚴意<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>段<sub>レ</sub>忠<sub>レ</sub>勤<sub>一</sub> 御感<sub>レ</sub>悦<sub>レ</sub>也 思<sub>レ</sub>名<sub>レ</sub>依<sub>レ</sub>之<sub>一</sub>幸<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>旨

慶應二年丙寅正月廿二日一橋中納言松平肥後守板倉伊賀守

小笠原忠政守春 内 葵岡<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>報

毛利大儀父子家政向<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>市<sub>レ</sub>届<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>来<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>昨<sub>レ</sub>年<sub>一</sub>七月<sub>一</sub>父子<sub>一</sub>黑<sub>レ</sub>衣<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>軍

令<sub>レ</sub>狀<sub>一</sub>而<sub>レ</sub>持<sub>レ</sub>京<sub>レ</sub>師<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>乱<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>幸<sub>レ</sub>對

禁闕及<sub>レ</sub>砲<sub>レ</sub>發<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>候<sub>一</sub>也<sub>一</sub>恐

天朝<sub>一</sub>不<sub>レ</sub>業<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>届<sub>レ</sub>玉<sub>レ</sub>極<sub>一</sub>付<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>儀<sub>一</sub>父子<sub>一</sub>可<sub>レ</sub>交<sub>レ</sub>嚴<sub>レ</sub>科<sub>一</sub>交<sub>レ</sub>益<sub>レ</sub>田<sub>一</sub>右<sub>一</sub>門<sub>一</sub>介

福<sub>一</sub>永<sub>一</sub>越<sub>レ</sub>後<sub>一</sub>國<sub>一</sub>司<sub>一</sub>信<sub>一</sub>遠<sub>一</sub>打<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>余<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>主<sub>一</sub>意<sub>一</sub>取<sub>レ</sub>失<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>礼<sub>一</sub>非<sub>レ</sub>義<sub>一</sub>

及暴劫<sup>三</sup>付三人斬首<sup>一</sup>上備安檢<sup>二</sup>并參謀<sup>一</sup>者共<sup>二</sup>丈<sup>一</sup>加  
 誅戮任用失人<sup>一</sup>恨深恐入悔悟伏罪未<sup>二</sup>慎<sup>一</sup>在<sup>三</sup>趣<sup>一</sup>自判<sup>一</sup>  
 書<sup>一</sup>以<sup>二</sup>中立<sup>一</sup>從<sup>二</sup>後<sup>一</sup>於<sup>三</sup>交<sup>一</sup>件<sup>一</sup>在<sup>二</sup>閣<sup>一</sup>自<sup>三</sup>承<sup>一</sup>才<sup>二</sup>主<sup>一</sup>水<sup>三</sup>正<sup>一</sup>戶<sup>二</sup>川<sup>一</sup>  
 銚<sup>三</sup>郎<sup>一</sup>松野<sup>二</sup>孫<sup>一</sup>八<sup>三</sup>郎<sup>一</sup>等<sup>二</sup>在<sup>一</sup>糾<sup>三</sup>交<sup>一</sup>孫<sup>二</sup>恭<sup>一</sup>順<sup>三</sup>謹<sup>一</sup>慎<sup>二</sup>在<sup>一</sup>  
 趣<sup>一</sup>自<sup>二</sup>於<sup>一</sup>大<sup>三</sup>膳<sup>一</sup>文<sup>二</sup>子<sup>一</sup> 朝<sup>一</sup>敵<sup>二</sup>之<sup>一</sup>罪<sup>三</sup>名<sup>一</sup>在<sup>二</sup>未<sup>一</sup>除<sup>三</sup>作<sup>一</sup>去<sup>二</sup>早<sup>一</sup>定<sup>三</sup>不<sup>一</sup>明<sup>二</sup>  
 統<sup>一</sup>帥<sup>二</sup>之<sup>一</sup>道<sup>三</sup>失<sup>一</sup>公<sup>二</sup>家<sup>一</sup>來<sup>三</sup>之<sup>一</sup>者<sup>二</sup>也<sup>一</sup>犯  
 朝<sup>一</sup>敵<sup>二</sup>之<sup>一</sup>罪<sup>三</sup>段<sup>一</sup>之<sup>二</sup>科<sup>一</sup>之<sup>三</sup>輕<sup>一</sup>雖<sup>二</sup>然<sup>一</sup>祖<sup>三</sup>先<sup>一</sup>以<sup>二</sup>來<sup>一</sup>之<sup>三</sup>忠<sup>一</sup>勤<sup>二</sup>之<sup>一</sup>思<sup>三</sup>格<sup>一</sup>別  
 寬<sup>一</sup>大<sup>二</sup>之<sup>一</sup>主<sup>三</sup>意<sup>一</sup>之<sup>二</sup>以<sup>一</sup>高<sup>三</sup>之<sup>一</sup>內<sup>二</sup>拾<sup>一</sup>万<sup>三</sup>石<sup>一</sup>取<sup>二</sup>上<sup>一</sup>大<sup>三</sup>儀<sup>一</sup>之<sup>二</sup>誓<sup>一</sup>居<sup>三</sup>長<sup>一</sup>門<sup>二</sup>  
 永<sup>一</sup>執<sup>二</sup>居<sup>一</sup>家<sup>三</sup>督<sup>一</sup>之<sup>二</sup>儀<sup>一</sup>之<sup>三</sup>可<sup>一</sup>然<sup>二</sup>者<sup>一</sup>未<sup>三</sup>撰<sup>一</sup>可<sup>二</sup>自<sup>一</sup>古<sup>三</sup>名<sup>一</sup>門<sup>二</sup>介<sup>一</sup>越<sup>三</sup>後  
 信<sup>一</sup>謙<sup>二</sup>家<sup>一</sup>名<sup>三</sup>之<sup>一</sup>後<sup>二</sup>永<sup>一</sup>世<sup>三</sup>可<sup>一</sup>為<sup>二</sup>新<sup>一</sup>統<sup>三</sup>之<sup>一</sup>地<sup>二</sup>段<sup>一</sup>遂

海舟書屋

奏聞以上

正月

即日於 中所出渡之書取

長防處置之儀祖先より勤功有之は自寛典を取行

之儀

思召<sup>二</sup>交<sup>一</sup>今<sup>三</sup>度<sup>一</sup>決<sup>二</sup>議<sup>一</sup>之<sup>三</sup>趣<sup>一</sup>言<sup>二</sup>上<sup>一</sup>被

聞召<sup>二</sup>猶<sup>一</sup>因<sup>三</sup>內<sup>一</sup>平<sup>二</sup>穩<sup>一</sup>幸<sup>三</sup>安

宸<sup>一</sup>襟<sup>二</sup>之<sup>一</sup>樣<sup>三</sup>被<sup>一</sup>仰<sup>二</sup>出<sup>一</sup>之<sup>三</sup>事<sup>一</sup>

勅諭

長防交置之儀決議<sup>一</sup> 少食<sup>二</sup>方<sup>一</sup>今<sup>三</sup>患<sup>一</sup>憂<sup>二</sup>惑<sup>一</sup>乱<sup>三</sup>之<sup>一</sup>於



國新深<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>悩 宸襟<sub>ニ</sub>厚<sub>ク</sub>加<sub>レ</sub>仁惠<sub>ヲ</sub>為<sub>レ</sub>當<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>置<sub>レ</sub>國內平  
穩<sub>ニ</sub>幸<sub>ニ</sub>安 宸襟<sub>ニ</sub>様<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub> 仰出<sub>ル</sub>事

市別紙

長防<sub>ニ</sub>支<sub>レ</sub>主<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>昨日<sub>ニ</sub> 少<sub>シ</sub>食<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>共<sub>ニ</sub>自然<sub>ニ</sub>疎<sub>ニ</sub>暴<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>支<sub>レ</sub>主<sub>ニ</sub>  
有<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>内<sub>ニ</sub>憂<sub>レ</sub>外<sub>ニ</sub>患<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>乱<sub>ニ</sub>拘<sub>ル</sub>儀<sub>ニ</sub>付<sub>レ</sub>旁<sub>ニ</sub>以<sub>テ</sub>為<sub>レ</sub>悩  
宸襟<sub>ニ</sub>付<sub>レ</sub>人心<sub>ニ</sub>惑<sub>レ</sub>乱<sub>ヲ</sub>汝<sub>レ</sub>様<sub>ニ</sub>公<sub>ニ</sub>明<sub>ニ</sub>至<sub>レ</sub>當<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>支<sub>レ</sub>主<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>收<sub>ル</sub>  
段<sub>ニ</sub>仰<sub>出</sub>ル

同年正月紀妙家<sub>ニ</sub>達<sub>レ</sub>白

去<sub>レ</sub>夏 市<sub>ニ</sub>進<sub>レ</sub>發<sub>レ</sub>以來 茂<sub>ニ</sub>兼<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>肖<sub>レ</sub>身<sub>ヲ</sub>以<sub>テ</sub>辱<sub>レ</sub>也<sub>ニ</sub>惣<sub>ニ</sub>督<sub>レ</sub>

海舟書屋

命<sub>ヲ</sub>最<sub>ニ</sub>力<sub>ニ</sub>傾<sub>キ</sub>敬<sub>ニ</sub>賦<sub>シ</sub>之<sub>レ</sub>尽<sub>ス</sub>當<sub>レ</sub>地<sub>ニ</sub>出張<sub>ニ</sub>至<sub>レ</sub>昨<sub>レ</sub>冬<sub>ニ</sub>殆<sub>ニ</sub>  
巨<sub>ニ</sub>萬<sub>ノ</sub>耗<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>共<sub>ニ</sub>安<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>容<sub>レ</sub>易<sub>ニ</sub>時<sub>ニ</sub>勢<sub>ニ</sub>効<sub>ニ</sub>忠<sub>ニ</sub>盡<sub>レ</sub>力<sub>ヲ</sub>秋<sub>ニ</sub>  
幸<sub>ニ</sub>存<sub>ル</sub>儀<sub>ニ</sub>付<sub>レ</sub>右<sub>ニ</sub>其<sub>レ</sub>費<sub>ニ</sub>數<sub>ニ</sub>計<sub>シ</sub>之<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>顧<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>方<sub>ニ</sub>經<sub>レ</sub>理<sub>シ</sub>任<sub>ル</sub>今<sub>ニ</sub>日<sub>ニ</sub>是<sub>レ</sub>  
市<sub>ニ</sub>勤<sub>ニ</sub>匠<sub>ニ</sub>其<sub>レ</sub>也<sub>ニ</sub>只<sub>ニ</sub>、此<sub>ニ</sub>市<sub>ニ</sub>一<sub>ニ</sub>奉<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub> 幕<sub>ニ</sub>府<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>市<sub>ニ</sub>威<sub>ニ</sub>稜<sub>ニ</sub>也<sub>ニ</sub>市<sub>ニ</sub>立<sub>ル</sub>  
執<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>、海<sub>ニ</sub>内<sub>ニ</sub>久<sub>ニ</sub>安<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>基<sub>ニ</sub>也<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>日<sub>ニ</sub>夜<sub>ニ</sub>幸<sub>ニ</sub>欣<sub>ニ</sub>至<sub>レ</sub>候<sub>ニ</sub>  
少<sub>シ</sub>望<sub>ニ</sub>、然<sub>レ</sub>、支<sub>レ</sub>此<sub>ニ</sub>度<sub>ニ</sub>市<sub>ニ</sub>糾<sub>レ</sub>同<sub>ニ</sub>也<sub>ニ</sub>市<sub>ニ</sub>滿<sub>レ</sub>進<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>市<sub>ニ</sub>手<sub>ニ</sub>續<sub>レ</sub>也<sub>ニ</sub>市<sub>ニ</sub>附<sub>レ</sub>也<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>  
至<sub>レ</sub>振<sub>レ</sub>一<sub>ニ</sub>条<sub>ニ</sub>也<sub>ニ</sub>市<sub>ニ</sub>成<sub>レ</sub>儀<sub>ニ</sub>、市<sub>ニ</sub>中<sub>ニ</sub>、右<sub>ニ</sub>、其<sub>レ</sub>、市<sub>ニ</sub>上<sub>ニ</sub>大<sub>ニ</sub>事<sub>ニ</sub>也<sub>ニ</sub>付<sub>レ</sub>容<sub>レ</sub>易<sub>ニ</sub>  
決<sub>レ</sub>論<sub>ニ</sub>汝<sub>レ</sub>、其<sub>レ</sub>、儀<sub>ニ</sub>、市<sub>ニ</sub>得<sub>レ</sub>共<sub>ニ</sub>、市<sub>ニ</sub>切<sub>レ</sub>、市<sub>ニ</sub>愚<sub>ニ</sub>考<sub>ニ</sub>任<sub>ル</sub>、市<sub>ニ</sub>支<sub>レ</sub>、市<sub>ニ</sub>、此<sub>ニ</sub>度<sub>ニ</sub>、  
市<sub>ニ</sub>一<sub>ニ</sub>奉<sub>ニ</sub>、市<sub>ニ</sub>實<sub>ニ</sub>、市<sub>ニ</sub>海<sub>ニ</sub>内<sub>ニ</sub>治<sub>レ</sub>乱<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>機 幕<sub>ニ</sub>府<sub>ニ</sub>市<sub>ニ</sub>真<sub>ニ</sub>座<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>境<sub>ニ</sub>  
幸<sub>ニ</sub>存<sub>ル</sub>、市<sub>ニ</sub>此<sub>ニ</sub>、市<sub>ニ</sub>大<sub>ニ</sub>造 市<sub>ニ</sub>進<sub>レ</sub>發<sub>レ</sub>、市<sub>ニ</sub>成<sub>レ</sub>儀<sub>ニ</sub>、市<sub>ニ</sub>一<sub>ニ</sub>、市<sub>ニ</sub>、永<sub>ニ</sub>逸<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>為

其長策もも幸存の何分も此度も厳然し而不置  
 天下の耳目を一洗故し長防の外諸藩の内も萬一  
 覬覦の意を抱く者ありて此中一挙にて并せしむる禍  
 心をも消滅故に抗叛を以て不置の慮度事も幸存の  
 故又萬一一日而苟安を計る暇味し中處に其有しつて今日  
 海内諸藩の誅伐を拒きしむる所引續又、干戈を動か  
 して之を不備に成り天下の禍患年々深く已成語  
 幕府に漸威勢の力も尽果廢れ昂沸し世に可  
 成と深く憂急仕他藩も不知弊藩の如きを最早引續  
 再舉し其是來に付何分此度も一挙にて中湯平の如

海舟書屋

中、抗を彼 嚴命に抗拒仕、後も、弊藩疲弊し、餘との  
 とも立搦、甲冑兵を進め、諸道に寄手と力と併せ  
 天朝幕府に漸威令に依仗し、義旗を建朝敵を征伐  
 仕、事、必、定、虜、膽、を、奪、ひ、微、功、を、奏、し、可、中、何、分、也  
 此度も效忠し、秋、幸存に付、益、死、力、を、尽、し、可、中、何、分、也  
 覺悟を以て仰預く、八月、姑、息、し、不、置、幸、海、内、蒼、生、  
 為、久、安、し、中、湯、平、也、望、に、抗、事、深、禱、懇、願、度、此、段、伏、し、幸  
 建言、頓、首、敬、白

正月

茂 兼

同日周防守在渡

御府内晝夜廻り候に付て、蓋し右達主に次才も有るに、不  
 都合に候も有之去亥年書面を以て達主に通し、全く市中に於て  
 殺傷又し押借其外悪行お働か者も搦捕に不及し、場直に  
 切捨不苦に、餘酒狂言に、法政に、或は、廻り人数に對し、  
 同振に、乱妨人々、素多鎮静を主と致し、搦捕可中、勿論  
 之事に、おせ、白又苦振廻し、手餘り難捕押し、身分柄し、  
 美お切捨不苦に、  
 右に、趣改言右達主に、多深く、お熱意柄、右市、都に、是、  
 通取締方、お心得別、市、お為、中、御府内、清静方、お願、

批可致

同年二月初泉在渡

徳川玄同殿 市進茂 市後備市免

御留守に儀、市委任に成、昔於大坂表、仰出近、お出府  
 にお立、此候為心得向、可右達主、

同日二日伊賀在渡

毛利大膳父子依罪に候、お疑に、件し、お少、お付、大月、お目  
 付、お以、お乱、お有、お交、お孫、お恭、お順、お謹、お慎、お在、お立、お候、お自、お筆、お判、お書  
 にお以、お立、お通、お右、お達、お主、お趣、お付、お寛、お大、お趣、お意、お以、お交、お置  
 にお吉、市、お養、お間、お成、お付、お崎、お事、お養、お州、お表、お

越 所裁許可中渡者 仰付間地段未達

別紙

毛利大親父子所裁許の段は御通に達せしむるに於て速に達し  
申征伐を成し官給心緩き候可申候

長防士民一統臣子之分を御義情安中談頭言

我両君上し思召し元来 皇國一政大義名分相立忠節信義

為平度より出来しに既嘉永癸丑外夷所不志し候に付

幕府公列候し内尋し候也

慶意此道事言侍吏し内良策より速に書面し以て行給候

海舟書屋

予克 皇國一政不敗を以て外侮防衛方難未成 皇國一統元

慶意忠道奉り外代言し喜し内是に之より其の要り出候

幕府侍吏し内尋し振 慶意此道事言し内如も事より其の

上巳 一 概田 一件 昔種より禍変も出来此候より振し内乱も可立至り

外し内煩意し内如も堪えし忠節信義より其の誠心より其の

以情致し難し内尋し何事か 幕府

慶意此道事言し内如も 公武内合新 皇國一政より其の振し

東西奔走内空力より其の成り交り 幕府も建言し塵島も其

為知名分より其の振し申採用も其の事候し江戸并二条の事

事より 申直し内尋し其の事

天朝幕府君臣出遣遇風雲會合以出後志を以  
為漸久安慶後以中盛典を以て奉り 將軍家を始列度方  
と供奉を仰付加茂石清也

神廟に 行幸君臣共々之款交神明を以て折々上様夫に  
依り布告を以て成り遂て天下億兆仰感承奉下後三弟一也  
所安效ふを遂に之を以て

天朝及幕府信を天下後世に以て示し進めし如く未年後  
来天下人心し帰向をも相拘り可なり故苟くも 皇國に在り者  
天朝及幕府に此の大事を以て等閑に相考し振て大義  
名分を以て立のふに臣子一己の分を以て相も亦無令一層

海舟書屋

此類意に餘り消滴し其の傳をも以て成度とあり主志を以て序感奮  
を以て立身家をも以て顧國力を尽し以て平生し 中鴻恩を  
為後 皇國一段に振て一途に之を以て皇國に在りて所成をも  
其強を以て立度未も関を以て採夫に其の始に其の交恐多く  
也 天朝に之を以て捨て監禁使を以て

厭感不斜りの 中條記を以て賜園國感戴を以て次才  
中道も其の以て之を以て美知を以て得せし後北方堺町中門教書傳  
中免を 仰出加し此日也

聖上之遊 中信任役執心務 中依頼を 思召七卿方  
俄に 中嚴謹し志沙汰をも以て且進むを 仰出

勅諭 台昔昔もつとなく我輩は天子に程察然別人の事  
 分りぬれども我輩に下と特惑之生し悲憤し御機謙謙  
 政は自我友君上とて殊しく外に心配精しく然れども進んじや  
 壮年し者も過激に我輩は我輩も我輩も去秋京師  
 変節に立ふた友君上とて元來の知名心事に之や、幸甚  
 天朝に示方ありは臣に之を為すは為すは幸甚入京師變節  
 巨魁を謀る者早速支く我輩は我輩は我輩は仰上  
 然し京師暴動の罪を既帰忌むる不有し友君上積  
 年忠誠し公明正大一点も天地鬼神に之を慙はる事  
 無しと交東西藩邸に我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は

海舟書屋

昔は台放りし我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は  
 慎むるを我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は  
 一統情定委細に洞察し為すは我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は  
 君上

天朝及幕府に之を我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は  
 之を為すは我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は  
 勅旨に命を我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は  
 皇國中一同新く有るは我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は  
 中領内も我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は我輩は

三因循姑息偷安苟且之事  
 皇國之大義名分若  
 一切度外之政一主只身臣身死之安邊を謀る心底より  
 起すも可有之外我友君上最前之水不主を何れ心  
 三有之振中解の族も有之或も去冬以来之水恭順  
 次才て定之朝敵之水大罪方之水故大悔悟を伏謝する  
 事之振中解の族も有之由多年忠敬を奉る心中心巨  
 細に救義知為之恐入之事ニ此度之災十一時雲雨晦冥  
 日月光を失ふ同様ニ台級令晦冥中より天上ニ去る事  
 日月之光毫末も増減無し先年

聖上 將軍家も亦為台 將軍上洛君臣共ニ神相子

海舟書屋

子為哲也  
 取感し御旨 申儀詔も亦賜 將軍公  
 江戸是二条市城等ニ申直ニ仰せられ次才書西長上至  
 誠を以て奉公方為遂に心事を盡し知名に後京師変動  
 之罪己之罪忌む事不有し上之速に申定罪明白ニ辨別  
 水跡外水咎等ニ遊ハ水事ヲ事ハ答ニ申考ハ第一此解  
 水沙汰之節ニ付友君上之水申禮責振し候有し此時て決  
 取之念 台首ニ命じ無し之中間ニ台罪名を羅織し  
 有之より起すハ水連無し水互ニ先祖已来長防二州生  
 育仕茲百年莫大ニ高恩を承け奉りハ若傍觀を視  
 事ハ助之無しハ保台操罪名を羅織し玉誠之水心事

を塵敵一徹上ふ故也其罪二つ為陷也立玉りて正志  
 幕府之由不置也ふら為當後未天下忠義之道を名塞  
 自ら 皇國不一致候に侍て天下列侯方実子國不を  
 其為憂に由方と決り由信候と其為立る交り候也此我  
 昔願ふ知る処に侍り只我に由五子臣子之分に侍て友君上  
 後年 天朝及幕府之忠敬を其為尽し其交蓋に親感  
 欲慕に立り候我に昔も又兩君上は玉誠を以前後一貫  
 終始不変に奉公申上り即臣子當然に分三つ第一也  
 其實罪不曉に侍是昨雪きふり候に由候也然上り  
 天子及將軍に由直訴申上り外手段無し左候ふら為

海舟書屋

舟和儀と決りて侍り右振信安巨細申出候に謀誣し其塵  
 敵に採用し其由も雲雨晦冥日月光を失ふ候に由不得止  
 一同退り封境を鎖し嶮阻に接防備を設け雲雨開晴の時  
 右待可し其才第一兵力に由候に候令に各々  
 天朝及幕府を假り候に由王者に師に右振由不常し  
 其由も侍り候 敵意 台吉に由侍り候に必然に由候に由生  
 し忠義を其勵し及防禦に外手段無し昔元禄赤穂に送臣  
 大石内蔵助以下四十七人主君淺野内匠頭及し為し吉良氏に  
 讐を復し其内匠頭及事候 幕府大徳に節自ら大石敬  
 振舞方候に由起原を尋ね候に由吉良に由怒り候に由



幕府より罪科の仰付も當惑し以て有し左に一通し  
 帝例を以てし主君し為として臣の内花助以下大法を拜し吉良  
 氏に渡能言をていし暴動の振起一可なり作伴主君吉良氏  
 かし怨し初然しもせよ 幕府よりし罪を當惑しもせよ臣子し  
 分る御美情実より起しし不得止次中二自後世誰き人二も  
 不感板者無し演史二載せ劇場に傳へん者少く其感泣流  
 涕し忠臣烈士と為さるる是天性夔倫の根さるる交言語  
 瑞令を不待して人々同一き其方よりし起る交言我友君  
 上や前二述も通し積年し其忠誠終始一貫一途し  
 皇國も亦為さるる思召乍恐

海舟書屋

天朝及幕府信を天下後世に失ふ不遊し其度と  
 忠節信義し其心事を全し淡野内匠頭及如き私怨  
 より事起りし事起りし事起りし又京師變動し素より中二も  
 多し其思入の事し其根元を尋ねる圍國し士民其  
 天朝幕府神明を為し其言の忠節誠二感奮仕居る如し  
 後し其沙汰二判惑を生し壯年し過激より事起りし事  
 而君上二其心術の中其交言の中忠節始終不為其變唯多  
 人知し其事多端し其事に付て思召寄らるる所ありし  
 狙器出幕の致し其早急其身上二其取らるる功績と其  
 水歩罪として其意末も其し其ハ國內一統決死防戦七度

人間ニ生れりて此の究罪を曉し奉らばてふに本無事也  
 其史ヲ載せられりて毛利翁不年ニ高懸之ヲ示す不ら  
 其主人ノ定罪を傍觀在視致しと口と子解るる手  
 足耳目を具し此世に生るる甲斐之無し次才ニ大石内  
 藏介以下四十七人をして我今之地位に居しむる也尤  
 至極に同獲同心致し此處有し召交し此度合議衆決  
 遂に士民一統を折言し如件天地照覺鬼神立傍檢  
 死不渝依り天下後世に我の苦臣子に微志傳聞し誤誤  
 不らんと為め各一本を懐き其の古のふり

右板行に摺立國內士民を延入其部に後事由在板摺

海舟書屋

職養抄にも雇入の趣也

三月十一日 和泉守

水戸殿家老公美出の書付

水戸殿舎弟故左衛門依事於京地ゆゑ之儀仰出之程  
 大病ニ付為病舎才民部大輔事仕中居折柄任官仰出長少  
 由征伐事不穩時勢ニ付一際嚴重に敬之清向未勤可勵降忠旨  
 仰出大場主孫正始にも致之清向嚴重に心得盡力可令輔  
 依候義仰候誠以冥加至極務方仕合事存候意同許  
 混雜ニ付從 公邊出人數ニ付折柄京師に致之清

仰出後方々之程合之可也

公邊之助之同家之役助也 柳兼知也 由珠氏於  
大輔後幼年旁大坊之由用之勤之何分由後之改之  
付古之取京師之内之立度未運之文

上達之未成由不都合之上之由不都合之事之壅蔽之  
姿之未成之由之

公邊之由内達之改之傳之在之長州之文之  
振之手順付之上之京師之勢之自之靜謐之可成之付  
何年水戸家之事情深之賢察之成下民部大輔後之益之  
松平親後之養子内約之取極之勢之得之此程之引

海舟書屋

取之振之由成之由之内之由同之振之付之

寅三月 水戸殿 家老共

同年四月二日 水戸傳後人養之落之美出之言付

去年大小鑿察之役之横方由下向由尋之付之由表懐之底  
意之後之極之上之振之由由事之付之巨細中上之由之  
石之由意之兼知之由成之得父子多年之心事圖國士民  
一統之慎安之由明瞭徹上仕之由之難有年存之由恐大  
小鑿察之役之横方也  
天朝 幕府之由耳目之由代主大之事件由兼知之

勅命 台旨を以て蒙通し下向し素より公明正大  
當りし耳目を以て見聞す為事の中上と云ふ事、是非  
善悪忠邪曲直の洞察可く為事、又右の役、横方、於  
己に巨細の事、屆父子誠意、園情、定事、由落、意、由兼、知  
この事、二の得、此条、由沙、法、の助、便、令、於

天朝 幕府申裁、断、方、為、立、其、行、要、由、耳、目、二、方、為、代、由、立  
二、由、沙、の、成、下、の、由、役、の、横、方、由、落、意、由、兼、知、の、即、二、由、連、任  
事、交、り、而、已、幸、存、の、事、以、園、内、の、由、度、の、由、横、振、振、二、二、  
何れ、園、園、意、外、の、由、沙、法、二、可、未、成、成、の、中、解、の、者、也、若、し  
素より未幾、の、役、真、偽、を、不、分、明、の、由、也、去、冬、父、子、誠、意

海舟書屋

園園 臣子一統、其、徳、義、苦心、息、意、不、立、の、徳、第一、上、下、之、情、實  
難、能、く、して、不、容、易、 皇、園、内、大、園、係、の、次、身、也、立、玉、の、言、を、送  
憶、千、萬、の、事、二、何、事、此、度、由、下、向、由、役、の、横、方、格、別、の、状  
を、以、今、一、卷、私、也、各、出、得、の、情、定、事、由、沙、法、二、下、の、振、振、成、事、  
式、也、上、從、の、由、沙、法、二、難、事、也、若、し、一、事、の、由、得、止、事、二、付、不、友、也、非、  
完、悟、し、外、之、と、苦、意、の、餘、此、度、上、試、の、事、由、採、用、の、下、の、事、  
第一、難、有、幸、存、の、此、度、由、惡、由、取、計、の、下、度、の、事、

四月二日

穴戸傳後助

内々演説

今日の使者を以て遣へし旨謹言奉畏候。其主父に申  
 真九郎に御達し旨有。當月廿一日迄に水漕に可申出候。後  
 申下候共、重大い事件に付申末古合候今迄以來、遣へし旨申  
 士民一統に御達し旨候。誠諭方書申氣申候。申候に必書  
 へ主人父子真九郎に御達し旨申候。申候に必書申候に可  
 有。此水漕に御達し旨廿一日迄に水漕に可申出候。申候に  
 半の只心痛申候。何卒古期限少く。此日迄に申候。申候  
 度。申候に可申出候。申候に必書申候に可申出候。以上

四月二日

実戸備後助

同月五日周防守申渡

大目付

水目付

来卯年三月佛蘭西國都府控令字内各州出産し物品を  
 聚め展覧場申候。申候に付御國産物も亦送附候。申候に  
 度昔同國政府申立。申國地出産し物品も亦送附候。申候に  
 万石以上以下領分知行出産し物品同様に送附候。申候に  
 節に可申立。且百姓所人より同様に出産者亦送附可  
 申候。申候に可申立。申候に可申立。申候に可申立。

申候に可申立。申候に可申立。

四月

六月

六月

海外諸國に向後學科修業又々商業し為に越度志願  
 者之預出次第其美許可成に在れし上而免し其章可  
 去後のるに者、各前并如何に手續を以何しに候に  
 何し國に在越度者甚細に認陪臣と主人百姓  
 町人との不し事行に代官領主地元の其助に可申立  
 其由免し下業を以て富に其越に者も有し其敬重可申  
 自ら心得連し其振主人とし又其而し事行に代官領主

海舟書屋

地政分入念可申付

台之趣可申相觸

四月

同月廿七日伊賀守相渡

毛利大膳父子申裁許に儀、自同人末家毛利左京毛利淡  
 路之利潰岐并吉川監物大膳家先実戶備後助毛利筑前  
 養州廣山鳥表、承出に振先連相連に交末出養、に換振可  
 承分、に付、に於又今般毛利大膳父子并長門惣領貞  
 左、相連に候有、に間末二十一日迄、度書表に承出に振且  
 末家并吉川監物大膳家先、に同日迄、同而に承出に振相平

安養守志の未達の間可也得て志

右に通供方万石以上以下之面之可也達之事

別紙口達し費

別紙未達之期限ニ至リ第一各代書不差出ルル所裁許達中  
より之罪重クハ付達ニ申討入可也成間意合主心得也  
固未待ハ様可也致

右に通討手し面之可也達ハ為心得未達ハ事

四月九日代官櫻井久し物支配不備中國倉敷陣屋并  
手代共居宅等浮浪し徒数百人寄集大砲歩弓等妨

海舟書屋

仕<sup>ハ</sup>越<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>少<sup>ハ</sup>ハ付即刻為警備人数繰出<sup>ハ</sup>ハ交<sup>ハ</sup>取<sup>ハ</sup>早<sup>ハ</sup>陣屋  
焼失死人手負者多<sup>ク</sup>ハ生<sup>ハ</sup>右<sup>ハ</sup>全<sup>ク</sup>近海より上陸仕  
右<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>業<sup>ニ</sup>及<sup>リ</sup>同<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>市<sup>中</sup>寺院等<sup>ハ</sup>此<sup>レ</sup>集仕居<sup>中</sup>此<sup>レ</sup>上<sup>ハ</sup>也  
扱<sup>シ</sup>美<sup>中</sup>御<sup>ハ</sup>程<sup>モ</sup>難<sup>ク</sup>依<sup>テ</sup>白<sup>テ</sup>戸川主馬助領分借<sup>テ</sup>人  
救<sup>テ</sup>出<sup>テ</sup>之<sup>ハ</sup>從<sup>テ</sup>變<sup>テ</sup>劫<sup>テ</sup>損<sup>テ</sup>振<sup>テ</sup>寄<sup>テ</sup>倉<sup>敷</sup>表<sup>ハ</sup>繰<sup>出</sup>可<sup>ハ</sup>近  
場<sup>ハ</sup>候<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>振<sup>テ</sup>寄<sup>テ</sup>種<sup>々</sup>手<sup>配</sup>仕居<sup>中</sup>未<sup>レ</sup>細<sup>ク</sup>第<sup>一</sup>高<sup>又</sup>  
可<sup>ハ</sup>中<sup>上</sup>之<sup>也</sup>此<sup>レ</sup>候<sup>ハ</sup>取<sup>テ</sup>敢<sup>テ</sup>申<sup>上</sup>以上

四月十二日

板倉振洋<sup>子</sup>家<sup>三</sup>不  
遠<sup>テ</sup>赤<sup>テ</sup>嘉<sup>テ</sup>兵<sup>隊</sup>

漢州達白

即今内外危急之時節防長而慶置之義之當否一依  
 皇國之真慶之未拘之重事之實以不客易而處  
 進之速之趣之為在尚又來之廿一日進之大膳父子  
 名呼為今度之吏不任之得之討入之未成之自其心得  
 之美果在待之振之仰渡之趣義知任之昨午尾張前  
 大納言振之美向伏罪之節未立解兵之在成之吏却之  
 市權吏同謀之而都合之而能中之神速  
 中上洛之朝命之清之不已之改之不容易止有之  
 由之以再討之仰出  
 御進發之成終之今日之立為之討入之時之成之天

海舟書屋

下之亂階之為天之事安明白成事之在中之從  
 朝廷時勢之應之而主之以實典可之受之振志之為  
 在之受之奉戴之由義及之天下衆人物儀喧之不堪中  
 次之在中之征伐之天下之重典國家之大事事史之不馳名  
 之大義判然之立之罪を鳴之令之不問して四方各言應  
 之政以執之之至也之難中之器之不可動之大  
 戒之有之而節天下之耳目在天下之名之以兵機不可振之  
 強而明其成之在中之事して國人不可討之謂之於之  
 撥亂濟世之職事之而劫掠之醜出之場合之在也之命  
 余天理之未成之戰闘於大義之清之任縱令出兵之命



令兼知任<sup>ハ</sup>其不得正<sup>ハ</sup>亦新中上<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>慮心<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>亦<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>而<sup>ハ</sup>下<sup>ハ</sup>ノ様  
幸<sup>ハ</sup>較<sup>ハ</sup>ノ京<sup>ハ</sup>都<sup>ハ</sup>詰<sup>ハ</sup>重<sup>ハ</sup>役<sup>ハ</sup>其<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>上<sup>ハ</sup>ノ板<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>越<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>自<sup>ハ</sup>此<sup>ハ</sup>候<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>上<sup>ハ</sup>  
以上

四月十四日

松平修<sup>ハ</sup>親<sup>ハ</sup>大<sup>ハ</sup>丈<sup>ハ</sup>家<sup>ハ</sup>某<sup>ハ</sup>  
木場傳内

同月十四日伊賀守未渡

別紙<sup>ハ</sup>通<sup>ハ</sup>毛利<sup>ハ</sup>大<sup>ハ</sup>後<sup>ハ</sup>家<sup>ハ</sup>某<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>出<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>告<sup>ハ</sup>松<sup>ハ</sup>平<sup>ハ</sup>安<sup>ハ</sup>藝<sup>ハ</sup>守<sup>ハ</sup>未<sup>ハ</sup>渡<sup>ハ</sup>  
留<sup>ハ</sup>為<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>得<sup>ハ</sup>未<sup>ハ</sup>渡<sup>ハ</sup>

右ノ趣<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>石<sup>ハ</sup>以上<sup>ハ</sup>以下<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>供<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>而<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>可<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>未<sup>ハ</sup>渡<sup>ハ</sup>ノ事<sup>ハ</sup>

四日

海舟書屋

大膳領内南部北集ノ内百四五十人當月四日夜蒸<sup>ハ</sup>祓<sup>ハ</sup>未<sup>ハ</sup>推<sup>ハ</sup>乃  
被<sup>ハ</sup>役<sup>ハ</sup>走<sup>ハ</sup>付<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>如<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>振<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>不<sup>ハ</sup>業<sup>ハ</sup>可<sup>ハ</sup>成<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>且<sup>ハ</sup>難<sup>ハ</sup>斗<sup>ハ</sup>早<sup>ハ</sup>速<sup>ハ</sup>行<sup>ハ</sup>清<sup>ハ</sup>探<sup>ハ</sup>索<sup>ハ</sup>  
名<sup>ハ</sup>捕<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>手<sup>ハ</sup>配<sup>ハ</sup>苦<sup>ハ</sup>嚴<sup>ハ</sup>重<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>付<sup>ハ</sup>志<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>早<sup>ハ</sup>竟<sup>ハ</sup>右<sup>ハ</sup>古<sup>ハ</sup>趣<sup>ハ</sup>如<sup>ハ</sup>今<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>來<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>  
慥<sup>ハ</sup>ニ亦<sup>ハ</sup>在<sup>ハ</sup>外<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>好<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>連<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>出<sup>ハ</sup>志<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>通<sup>ハ</sup>國<sup>ハ</sup>内<sup>ハ</sup>情<sup>ハ</sup>定<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>付<sup>ハ</sup>志<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>鎮<sup>ハ</sup>接<sup>ハ</sup>  
設<sup>ハ</sup>論<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>苦<sup>ハ</sup>意<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>交<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>昨<sup>ハ</sup>冬<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>來<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>來<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>有<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>且<sup>ハ</sup>昨<sup>ハ</sup>冬<sup>ハ</sup>  
主人<sup>ハ</sup>父<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>多<sup>ハ</sup>年<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>誠<sup>ハ</sup>意<sup>ハ</sup>士<sup>ハ</sup>民<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>統<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>情<sup>ハ</sup>定<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>巨<sup>ハ</sup>細<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>守<sup>ハ</sup>名<sup>ハ</sup>在<sup>ハ</sup>任<sup>ハ</sup>  
下<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>付<sup>ハ</sup>志<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>最<sup>ハ</sup>早<sup>ハ</sup>平<sup>ハ</sup>常<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>沙<sup>ハ</sup>法<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>可<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>仰<sup>ハ</sup>出<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>圖<sup>ハ</sup>國<sup>ハ</sup>  
幸<sup>ハ</sup>渴<sup>ハ</sup>望<sup>ハ</sup>居<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>交<sup>ハ</sup>今<sup>ハ</sup>般<sup>ハ</sup>品<sup>ハ</sup>進<sup>ハ</sup>振<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>取<sup>ハ</sup>為<sup>ハ</sup>道<sup>ハ</sup>路<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>風<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>  
之<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>傳<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>正<sup>ハ</sup>恐<sup>ハ</sup>圍<sup>ハ</sup>不<sup>ハ</sup>言<sup>ハ</sup>外<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>沙<sup>ハ</sup>法<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>可<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>立<sup>ハ</sup>玉<sup>ハ</sup>入<sup>ハ</sup>と  
終<sup>ハ</sup>然<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>悔<sup>ハ</sup>憂<sup>ハ</sup>憤<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>不<sup>ハ</sup>悔<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>差<sup>ハ</sup>起<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>可<sup>ハ</sup>有<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>不

右所次方之自新國許之勿論捕方之配當速之嚴守中  
計之何有他之不出之候也難之為急之取敢以達故其  
億万一貴國兵越之の台捕之の振初以頼此候  
幕府向之區北西屋之成至之下之振任度次以頼以上

四月  
毛利大徳  
家老中

同月十六日前同人在渡

酒井河内守

毛利大徳亦来中野此集之内百四五十人許當月四日相從  
走之の中大徳亦来より中野出告相平安藤守分届出有之

海舟書屋

去十日備中倉敷の代官不之及乱妨之候近々改換之候  
二付別紙一面之由之候討手之仰付之候此後賊勢增長  
之候不容易候之付由暇之下の留子之輩是之可也然之在姫路城  
之義之為之 中宿城之仰出之事如由數之清助之  
及之眾人殺之早速是出之候賊之形勢之可也其方候也  
出張詰事討手之来来之指揮被之遠之討取之候  
仰出之  
右之通未達之事

同月廿六日周防當在渡

毛利大膳家來南部北集之内百四五十人斗當月廿四夜  
從走しし。昔大膳家來松平安藝守へ届出。右々倭中國  
倉敷代友而し去。十日及亂妨。右々倭。可也。し。し。付  
支。討。身。之。事。仰。付。事。之。し。付。自。然。之。故。亂。可。收。也。難  
斗。之。留。路。之。領。分。之。勿。論。及。撤。次。守。他。領。之。事。付。入。討。取。之。松  
可。之。故。

右々趣近畿中國以助領分有。而。之。可。之。連。

備中國被亂妨。賊徒共去。十四日同國川通川通川船。白  
系下。之。交。養。州。表。之。為。討。鎮。之。美。之。三。兵。隊。之。人。數。之。白

海舟書屋

討取及鎮定。二付。之。美。向。之。人。數。并。軍。目。自。之。歸。養。之。以。  
九。殘。黨。之。亂。逃。去。之。者。也。有。之。二。付。先。連。之。在。下。之。趣。從。嚴  
重。可。之。心。得。

右々趣同廿九日。右供方。万石以上。以下。并。近。畿。中國。以。助。領。分。有。  
之。面。之。之。右。連。之。事。

同年五月九日。於養州表。小笠原。壹岐。守。中。渡。

松平安藝守。之。

毛利真丸家來

宍戸備後助

小田村素太郎

右備後助儀最早名代に所用を多しに友人等  
所不審し物なきに自方此預に成らる得べき  
取縁向に後厚可申付

実戸備後助

小田村素太郎

備後助儀も最早名代に所用多しに友人等  
所不審し物なきに自方此預に成らる得べき

海舟書屋

余一昨午十月謹を得て閑居中、此五月実忠閣老奉書を  
以て申付ありきの命あり甚惑ふに之れを令を拒むを得に  
出らるる閑老達より云大坂より上命あり速に申付返さるべき也  
と予唯々謹して上告を奉る閑老あり傳て曰京坂の事急  
也一日も猶予をへるに速に申上りて此處此時顯要の官  
吏平生予を快くせざるの徒急く予を見て愕然たり  
さるべし小栗上野介も他二名予を引いて別室にあり病中  
儀に云君今坂地より降命あり必要路の儀に預らむ知ら  
る如く方今危急の際なり政府佛郎西に北に金部甲  
若干軍艦を復す求む到るは一時に長を退討

夫ハハ後ハ其時宜ハ應ハ是ハ討ハ為リテ後邦内ハ  
其口ヲ容テ大決度アリ更ハ其路ヲ示シ悉ク諸侯  
ヲ削小シテ郡縣ノ制ニ改メテ是ハ最秘密ノ議既ニ  
大凡決定セリ君定テ同志ヲ表スルアリハ其意ハハ  
上坂ニテ説ク不アル一キ也ト予論事徒ハ時日ヲ消スルノ  
益アリテ実智ヲ察シ口ヲ不天唯是トキクノニ後大坂  
ニ去リ取念作努ヲ竭キ且關東ノ南漢ヲ了ラシ同ハ予  
僅テ答云郡縣ノ議ハ吾國交際起ルニ當リ其意ハハ  
其ハ一今我ハ徳川氏知事萬世ノ為ニ諸侯ヲ削小シ  
自ラ改権ヲ持テ天下ヲ号令せんともハ大ニ不可成下

真ニ邦家ノ所為ヲ以テ此大事業ヲ成スむハ欲セハ先自  
ラ倒レ自ラ削小シテ敵ハ賢ヲ選ク能ク奉ケ誠  
心誠意天下ニ愧ズキ位ニ立チ然後成ヲ入也此心  
神明ニ耻ハ此心泉下の大祖ニ愧ハ信シテ不終時ヲ馬ニ  
區ク薩長ヲ惡ムルハ初アリハ臣ハ肖シソトモ事ハ  
爰ニ從人育司中ノ説ク事甚ク可無キ決テ成ルハ  
らざるの空議將天下ノ怨ヲ更ニ災害ノ幾キ多不レ可  
知也希ク其此議ヲ上聴ニ達セヨ臣後此薩長ヲ  
蒙リ死ス賜テ敢テ不辭処アリト叩席一掃破表刻  
関夫大ニ惑傾馬アリ云郡縣ノ議ヲ目今ノ急務ハ

ありて今や征長戦結て不解頻りニ敗報あり且薩人  
 大久保<sup>幸</sup>一藏京師にありて長征の再度に及ぶ非淺し  
 出兵断の便あり然口上言を以て天誅に逆ふ言て  
 予も其甚固執を杜む加へ會藩人皆之を憎み兵を備  
 へて動靜を窺ふ忽ち整軍下し一大軍を發せハ萬事  
 在解し再び纏ふ所を不知法官吏云はる説を是を解  
 する唯汝あり而して之を説し上聴し入り東に二藩に説て  
 是事の固きをふくく我謹て美し即日上京せり

開國起原卷四十八

海舟書屋

